

容姿の褒め言葉が及ぼす影響に関する研究
1220449 北添菜々花
指導教員 坂本泰祥

研究背景

褒め言葉の受け取り方は様々な要因によって変わってくる事が明らかになっている。例えば何を褒められたかによっても変わり得る。そして、誰から褒められたか、いつ何歳のときに褒められたかなど要因は様々である。國田の容姿の褒め言葉についての研究では女性のみを対象に研究を行っており男性は研究対象ではなかった。近年ジェンダーレス化が進んでおり、男性も女性のように容姿についての意識が高まってきている動きがある。一方、教育現場での褒め言葉の研究であるが、吉川等の研究では受け手と送り手の関係性によって言葉の受け取り方が変わってくる事が明らかになっている。

研究目的

そこで本研究では、國田の研究を踏まえて女性だけでなく男性も対象とし性差、成長差を考慮し容姿に対する褒め言葉の受け取り方の影響を分析することを目的とする。さらに、吉川等の研究を踏まえ、受け手と送り手の関係性についても考慮しアンケート調査を行う。

調査・分析方法

文献研究とその結果に基づいたアンケート調査を行う。調査対象は性差と成長差を見るために男女高校生と男女大学生を対象とする。各設問においては嬉しいさについては五件法、いつ誰からどのように褒められたか等については自由記述で回答を得た。

分析結果

まず成長差に着目する。自分の容姿を気にしているかという質問では男性は成長差が見られたが女性は成長差は見られなかった。その褒め言葉の嬉しさという質問では男女ともに成長差が見られなかった。誰から言われるのが嬉しいかという質問では男女共に成長差が見られた。次に性差に着目する。誰から言われたかという質問では高校生、大学生共に少し性差が見られた。誰から言われるのが嬉しいかという質問では、高校生、大学生共に性差が見られた。それはどのような内容かという質問では、高校生、大学生共に性差が見られた。

考察・結論

成長差を見たときに男性の方は成長差が見られるが女性は成長差が見られない質問があった。これは女性の方が男性よりも早熟であることが理由に挙げられる。また高校生の男女は容易に相手を褒めることをしない傾向にあるが大学生まで成長すると異性を褒め始めることも明らかになった。一方、性差が現れた結果と現れない結果がある。このように複雑に性差と成長差が入り混じっている事がわかる。相手の成長段階と性別を考慮して褒め言葉を発さないと褒め言葉として正しく伝わらない可能性がある。

以上の研究を通して、次のような成果が挙げられると考えられる。

- ・高校生男女、大学生男女それぞれ容姿について褒め言葉の受け取り方の成長差、性差を明らかにした。